

【学年・教科・単元名】

9年生 外国語科 Our Project 7～インタビュー番組を収録しよう～

【経緯】

前の単元 (Program 3) の学習において、バスケットボールを発明したジェームスネイスミスさんについて、バスケットボール発明の経緯について知りました。そこで本単元では、Program 3 で学習した内容を活用して、ジェームスネイスミスさんへのインタビューをする活動を設定し、インタビューでは、司会者と回答者 (ジェームスネイスミス) のいずれかの役になって取り組みました。司会者は、回答者に安心して話をしてもらえるようにすることを意識する必要性がありました。また、回答者は、相手がどのようなことを知りたいのか想像しながら回答することを求められました。いずれの役においても、相手の考えていることを共感し合うことが重要で、これは普段のコミュニケーションを円滑にする上でも重要です。単元の学習を通して、円滑にコミュニケーションするために相手 (話し手・聞き手) の気持ちや考えに配慮する資質を育むことをめざしました。

【取組の実際】

① 単元序盤

まず、司会者役と回答者役に分かれて行うため、それぞれのめざす目標の姿を共有しました。司会者の場合は、回答者がより答えやすくなるように、相手の発言に対して相槌を打つことなどを目指しました。一方、回答者の場合は、質問に対して一文で回答するだけでなく、追加で説明を加える事を目指しました。学習した内容だけでなく、役になりきって発言内容を想像することなどが求められました。

② 単元中盤

回答者への質問項目は公平性を担保するために、学級全体で設定しました。これまで学習した内容を基に、多様な質問が出てきました。最終的には、学級全体で5つに絞りました。

そこからは、各生徒が司会者・回答者の役割を選択し、原稿作成・やり取りの練習を実施しました。原稿を覚えることはもちろん、相手の回答によって反応する場面もあるので、ペアで協働して練習していました。時にペアを変えながら、覚えた内容を自然と表現したり、即興性を発揮しようとしていたりしていました。

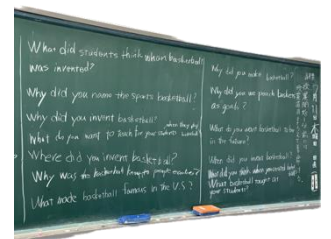
【取り組み後の子どもたちの姿】

① 英語技能習得意欲の向上

子供からは、「インタビューの中で、相手の言いたいことがよく理解できない場面があったから、聞く力をもっとつけたい。」という振り返りがありました。リアルなコミュニケーションの場面を経験し、滞りなく相手とやり取りできることを目指そうとする姿が見られました。

② 共感を伴ったコミュニケーション

相手の発言に共感し、エコーイングの中で発言を繰り返す (時に言い換える) ことで、コミュニケーションを楽しんでいる姿がありました。これらは母語におけるコミュニケーションでも、人間関係を築く上で重要です。普段のコミュニケーションでも今回での学びが生かされることを期



待します。

※エコーイング:相手の発言を、「～～ですね?」と繰り返すこと。